

インターンシップガイドブック

2017年7月

大阪大学 教育・学生支援部 学生・キャリア支援課

目次

1. はじめに

1

2. インターンシップの流れ

1

3. 募集（情報収集）

2

（1）大阪大学就職支援システム 2

（2）各学部・研究科の就職事務担当窓口 2

（3）就職サイト 3

（4）企業・団体のホームページ 3

（5）その他（経営者協会、大学コンソーシアムなど） 3

4. 応募

3

（1）大学推薦（＝豊中学生センターを通して応募するもの） 3

（2）自由応募（＝個人応募） 4

（3）学部・研究科就職担当係（教務係、大学院係等）が窓口になっているもの 4

（4）応募書類について 4

（5）複数のインターンシップに応募する場合 4

5. 選考

.....	5
(1) 大学推薦	5
(2) 自由応募	5
(3) 学部・研究科就職担当係（教務係、大学院係等）が窓口になっているもの	5

6. 受入決定後の準備

.....	5
(1) 書類の提出	5
(2) 保険の加入	6
(3) 宿泊先の確保	6

7. インターンシップ本番

.....	6
(1) 受入企業・団体の連絡先	6
(2) 交通経路の確認	7
(3) 当日携行するもの	7
(4) 服装	7
(5) 注意事項	7
(6) 緊急連絡先（大学）	7

8. インターンシップ後

.....	8
(1) 書類の提出	8
(2) 振り返り	8
(3) インターンシップ体験記	8
(4) お礼状	8

9. Q & A

.....	9
Q1. インターンシップのエントリーシートを添削してくれるところがありますか。 9	
Q2. 吹田・箕面のキャンパスで大学推薦の応募書類を提出することはできますか。 9	
Q3. 早めに企業に接触する意味でインターンシップに参加した方がいいでしょうか。 9	
.....	9

1. はじめに

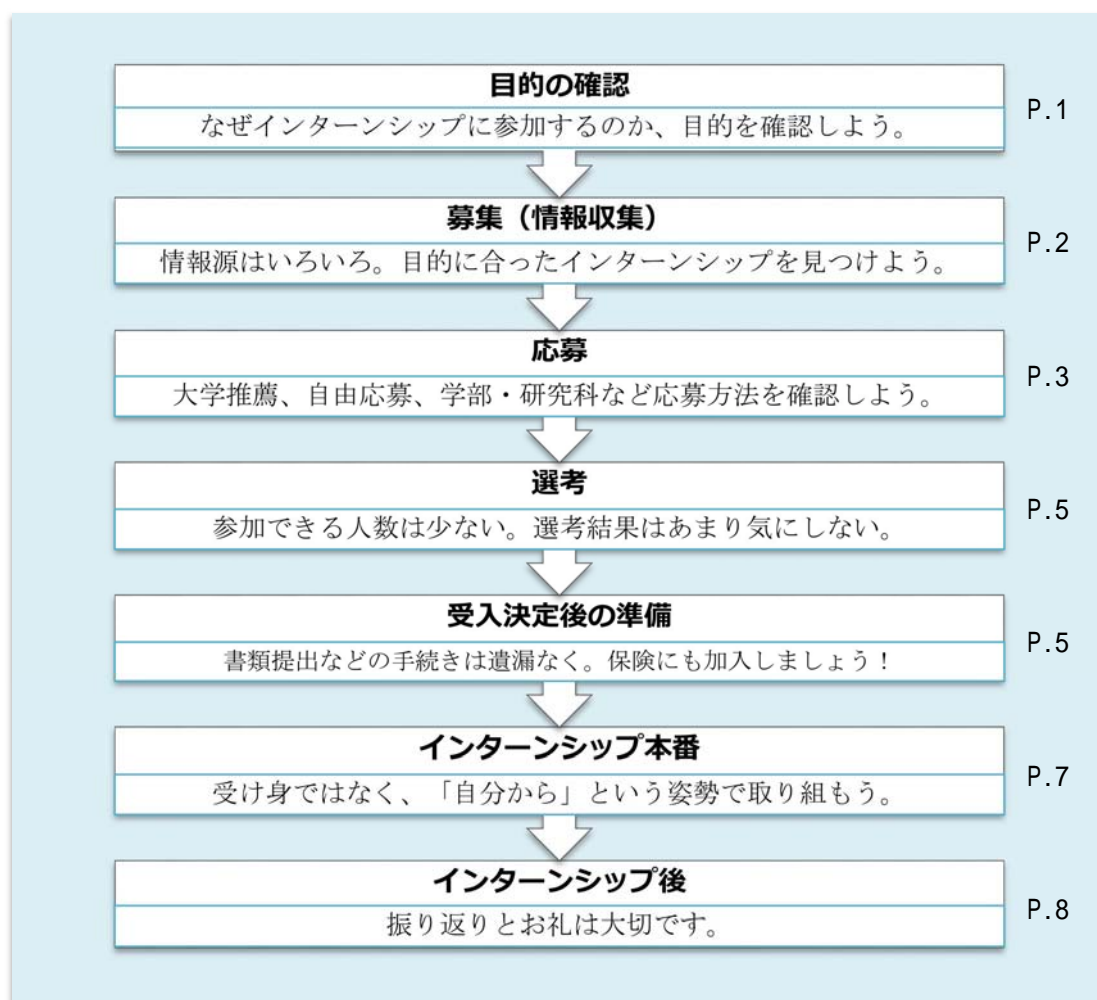
本学では、インターンシップは、「学生が在学中に教育の一環として、企業等で一定の期間行う職業体験及びその機会を与える仕組み」と考えています。

インターンシップといっても、職業体験型（実際に仕事が経験できるもの）、課題解決型（あるテーマが与えられ学生で検討し発表するもの）、説明会型（座学）と内容はさまざまです。目的意識を明確に持って参加することが大切です。業界・企業について知りたい、「働く」ことを経験して進路を考える材料にしたいなど、自分なりの目的を持って参加するようにしてください。

インターンシップの期間もさまざまです。期間が短い場合、「働く」ことを経験することは難しく、説明会のような内容になることも考えられます。インターンシップはあくまでも目的を達成する手段です。インターンシップへの参加ありきではなく、他の活動の方が自分の目的に近づくことができる場合もありますので、広い視点で考えてください。特に、学生の本分をおろそかにして、インターンシップに参加することのないようにしてください。

このガイドブックが、少しでもみなさんの役に立てば幸いです。

2. インターンシップの流れ



3. 募集（情報収集）

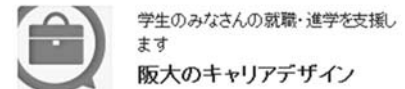
インターンシップ情報は、以下のようにさまざまな手段で収集することができます。

(1) 大阪大学就職支援システム

大学に届いたインターンシップ情報を掲載しています。

官公庁、地方公共団体、企業、留学生対象ビジネスインターンシップ(大阪外国人雇用サービスセンター)など。

① 阪大 HP トップページ「在学生の方」をクリック



② 阪大の就職・進学情報「就職支援システム」をクリック



③ 就職支援システム「インターンシップ」をクリック



(2) 各学部・研究科の就職事務担当窓口

各学部・研究科に、専門教育と密着した内容のインターンシップ情報が直接届く場合があります。学部・研究科によって告知手段はさまざまですので、所属の就職担当事務窓口(教務係、大学院係等)に問い合わせてください。

(3) 就職サイト

例年6月以降に就職サイト(マイナビ、リクナビ等)がプレオープンし、インターンシップ情報が掲載されます。会員登録をすることにより、サイト上で応募(エントリー)することができます。

(4) 企業・団体のホームページ

自社ホームページや地方公共団体ホームページでインターンシップ情報を公開している場合があります。大学や就職サイトに情報提供をしていない場合がありますので、興味のある企業・団体があれば、各企業・団体のホームページをチェックしてください。

(5) その他(経営者協会、大学コンソーシアムなど)

各地域・都道府県の経営者協会、インターンシップ協議会、大学コンソーシアム等が、インターンシップ事業を実施している場合があります。

例：経営者協会(和歌山県、兵庫県、福井県)、大学コンソーシアム大阪 など

—— コラム① 企業・団体に直接問い合わせるのは失礼？

インターンシップに参加したい企業等がある場合は、まず上記手段(HPの確認など)で情報収集をしましょう。それでも情報が見つからない場合は、企業等に直接問い合わせても構いません。「企業に直接問い合わせたら失礼でしょうか。」と質問に来る学生がいますが、失礼ということはありません。むしろその積極性こそ大切です。

なお、問い合わせをする際、電話マナーが大切なのは言うまでもありません。相手方はインターンシップだけが業務ではありませんし、多忙な中で対応されます。問い合わせの時点からインターンシップが始まっていると考えて臨みましょう。

4. 応募

応募したいインターンシップが決まったら、それぞれの募集要項等に従って応募してください。

なお、応募方法は、大学推薦、自由応募、学部・研究科就職担当係(教務係、大学院係等)が窓口になっているものの3通りありますので、注意してください。

(1) 大学推薦(=豊中学生センターを通して応募するもの)

大学のインターンシップ担当部署(豊中学生センター)を通して応募しなければならないもので、学生が直接応募することはできません。官公庁、地方公共団体は多くが大学推薦で、一部の企業も大学推薦の場合があります。

大学推薦の場合、実施団体・企業が設定している締切日よりも10日程度早く「学内締め切り日」を設定していますので、就職支援システムの締切日に注意してください。応募書類についても就職支援システムで確認してください。

なお、大学推薦であっても就職支援システムに掲載されていないインターンシップもあります。自分で大学推薦のインターンシップを見つけ応募したい場合、豊中学生センターに相談してください。

(2) 自由応募 (= 個人応募)

大学を通さず、自分で応募するもの。

(3) 学部・研究科就職担当係(教務係、大学院係等)が窓口になっているもの

学部・研究科に届いているものや、授業科目として実施されて単位認定されるもの等で、応募方法は学部・研究科に確認してください。

(4) 応募書類について

黒ボールペンで記入します(フリクションなど消えるものは正式な書類には使用しません)。修正液(修正テープ)は使わず、誤字があった場合は書き直しましょう。特に指定のない場合、手書きではなくパソコン入力でも問題はありません。

写真は、清潔感のあるビジネススタイルの写真を使いましょう。スーツと私服のどちらがいいかと質問を受けたり、私服の写真を貼っているのを見たりしますが、インターンシップ(職業体験)の応募書類でこういった写真が求められているかを考えましょう。

(5) 複数のインターンシップに応募する場合

インターンシップは応募したからといって参加できるとは限らないため、複数のインターンシップに応募をする気持ちはわかります。しかし、その場合にはインターンシップ期間が重ならないよう日程を調整して応募してください。

受入企業・団体は、スケジュールの調整や実習内容等、参加を前提として準備を行っていますので、決定通知を受けた後に辞退をすることは非常に迷惑をかけることになります。大学推薦の場合は特に、その性質上、インターンシップの受入決定後に辞退をすることは認めませんので、そのことを理解したうえで応募してください。

—— コラム② どうやってエントリーシートを書けばよいのか？

インターンシップに応募する際には、自己PRやインターンシップに参加したい理由など、質問に文章で答えなければならない場合があります。

当たり障りのないことを書いてしまいがちですが、少し踏み込んで、受入先の企業・団体の方がどのような学生に参加して欲しいと思っているのか、考えてみましょう。

周りの大人や先輩に見てもらおうのもよいでしょう。(Q&AのQ1も参照してください。)

5. 選考

書類選考だけのものから、面接やグループディスカッションが行われるものもあります。結果の連絡については、以下のとおり、応募方法により異なります。

(1) 大学推薦

豊中学生センターから結果をお知らせします（一部本人に直接連絡が届くものもあります）。受入の可否にかかわらず、応募者全員に結果をお知らせしますので、応募時にインターンシップ申込み確認票に連絡先を記入してください。

(2) 自由応募

自分に選考結果が届きます。

(3) 学部・研究科就職担当係（教務係、大学院係等）が窓口になっているもの

応募時に、学部・研究科に確認してください。

—— コラム③ 選考に通らなくても気にしない

インターンシップの選考になかなか通らない場合があります。なかには「インターンシップの選考に受からないから就職活動でも苦戦する」と落ち込む学生がいますが、あまり気にする必要はありません。いわゆる大企業であってもインターンシップの受入人数は少なく、採用人数より少ないことは多々あります。選考過程のエントリーシートやグループディスカッション等でうまくいかなかったのであれば、就職活動が始まるまでに改善する機会を得たと思ってください。

なお、受入人数の多いインターンシップは参加しやすいかも知れませんが、多くは1dayであったり、座学であったりします。このあたり、自分の目的と合致するかを考えて応募しましょう。

6. 受入決定後の準備

受入が決定した後、書類の提出等、実際にインターンシップが始まるまでの間に必要な手続きがあります。提出期限が短いものもありますので、注意してください。

(1) 書類の提出

誓約書等の書類の提出を求められた場合、期限までに提出してください。

企業・団体からメールや郵便が届いた場合、すぐに内容を確認して遺漏のないようにしてください。

(2) 保険の加入

インターンシップ開始までに、自分が怪我した場合の「傷害保険」、他人やモノに損害を与えた場合の「賠償責任保険」に加入することを強くお勧めします。

保護者がすでに加入している場合や、受入先が加入している場合などがありますので、まずは加入状況について確認しましょう。

そのうえで、未加入の場合は、インターンシップも含めた日常生活全般が適用対象となる保険等に加入することを強くお勧めします。

なお、大学推薦や学部・研究科が窓口になっているもの、教員の指示・推薦などによる場合は、「学研災」「学研賠」の適用対象となりますが、自由応募のものについては対象となりませんので注意してください。

* 保険適用に関する問い合わせ先（豊中学生センター）：cs-stu@ml.office.osaka-u.ac.jp

(3) 宿泊先の確保

遠方の企業・団体のインターンシップに参加する場合、企業等で宿泊先の斡旋があるかを確認のうえ、斡旋がない場合は早めに自分で手配をしてください。なお、一部の企業等を除き、宿泊先の斡旋はない場合がほとんどです。

—— コラム④ 「保険に加入しなくていい」と言われても

たまに、「インターンシップ先の企業から『保険には加入しなくてもいい』と言われたから加入しない」と言う学生がいます。怪我や損害を与えるような内容のインターンシップではないから、というのが理由だそうです。確かに仕事環境や内容はさまざま、建築現場とデスクワークでは危険度は違うでしょう。

しかし、危険度が低いといっても怪我をしたり、モノを壊す可能性はゼロではありませんし、実際、デスクワークでも怪我をすることがあります。その場合、企業が責任をとってくれるとは限りません。「保険に入らなくてもいいと言われたから入らなかったのに」と言ったところでどうにもなりません。保険は何のためにあるのかを考えましょう。

7. インターンシップ本番

いよいよインターンシップが始まります。目的意識以外にも持って行くものや注意することがあります。

(1) 受入企業・団体の連絡先

連絡をしなければならぬ場合のために、受入企業・団体の担当者の氏名、連絡先（電話番号等）は必ず控えておきましょう。

(2) 交通経路の確認

場所によっては電車・バスなどの本数が限られている場合があります。事前に経路や時刻表を確認し、決して遅刻することのないよう余裕をもって出かけましょう。遅刻ほど印象が悪く、やる気を疑われるものはありません。また、ギリギリで駆け込むのも好ましくありませんので、指定時刻の10分前には到着するようにしましょう。

(3) 当日携行するもの

- ・受入企業・団体から指定されたもの
- ・学生証 ・印鑑 ・筆記用具
- ・健康保険証（携行できない場合はコピー）
- ・受入企業・団体の担当者の連絡先

(4) 服装

受入企業・団体から服装について指示がある場合は、その指示に従ってください。

基本的に男子はワイシャツにネクタイ、スラックス（上着が必要な場合もあります）、女子はブラウス、スカート又はスラックス（上着が必要な場合もあります）等、ビジネスにふさわしい、清潔感のある服装を心がけましょう。

最近ではクールビズの関係で、軽装を指定する受入企業・団体が増えています。軽装の程度がわからない場合、初日はややきっちりした服装にして、社員の方の服装や雰囲気を見て2日目から調整してもいいでしょう。

(5) 注意事項

- ・受入先の就業規則を遵守すること。
- ・誓約書に記入・捺印した場合、その内容を遵守すること。
- ・実習中に入手した企業等内情報を外部に漏洩しないこと。
- ・遅刻、無断欠勤は厳に慎むこと。
- ・病気等でやむを得ず欠勤する場合には、必ず始業時刻前に受入先に連絡をすること。

(6) 緊急連絡先（大学）

インターンシップに関して、緊急に大学に連絡しなければならない事項が発生した場合は、豊中学生センター（電話番号 06-6850-6115）まで連絡してください。

—— コラム⑤ 「自分から」という姿勢で

インターンシップでも実際の仕事でも、ただ与えられるのを待っていたり、与えられた業務をこなすだけでは得られるものは少ないです。インターンシップが充実したものになるかどうかは、企業・団体のプログラム以上にみなさんの姿勢が左右します。置かれたポジションで、自分ができることにしっかりと取り組みましょう。企業・団体の方も学生からの質問やアイデアを歓迎してくれるはずですので、疑問に思ったこと、気付いたこと、アイデアなどをぶつけてみてください。

8. インターンシップ後

インターンシップ期間の終了=インターンシップの終了ではありません。指定されている書類の提出や、振り返りなどを行いましょう。

(1) 書類の提出

受入企業・団体や学部・研究科に報告書や評価書等の書類提出が必要な場合、速やかに期限までに提出してください。

(2) 振り返り

報告書が義務付けられていなくても、自分でインターンシップを振り返りましょう。特に、参加前と後で自分の中に起こった変化(職業観や感情など)を把握しておくことは、今後につながります。

(3) インターンシップ体験記

大学としては、インターンシップ体験記を書くことで振り返りを行って欲しいと考えており、就職支援システムに過去の体験記を掲載しています(<https://cs-web.osaka-u.ac.jp/recruit/internshiptaiken.html>)。

今後インターンシップに参加することを考えている後輩のために体験記を公開してもよいという方は、是非豊中学生センターにご連絡ください。個人が特定されない形で、大阪大学教職員・学生のみが見られるページで公開します。

* 問い合わせ先(豊中学生センター): cs-stu@ml.office.osaka-u.ac.jp

(4) お礼状

お世話になった受入企業・団体の方にお礼状を出しましょう。お礼状は、手紙、メールのいずれでも構いません。自分の中で感謝の念を持つだけでなく、その気持ちを形に表しましょう。



9. Q & A

Q 1 . インターンシップのエントリーシートを添削してくれるところがありますか。

A 1 . 各地区にあるキャンパスライフ健康支援センター相談支援部門キャリア支援室でエントリーシートの相談ができます。また、面接対策などについても相談することができます。

吹田：IC ホール1階

豊中：学生交流棟2階

箕面：研究講義棟A棟1階

以下 URL から事前に予約してください。

<https://cs-web.osaka-u.ac.jp/soudan/student/>

Q 2 . 吹田・箕面のキャンパスで大学推薦の応募書類を提出することはできますか。

A 2 . 吹田学生センターの就職窓口又は箕面学生センターに応募書類を提出しても構いません。ただし、就職支援システムの学内締め切り日は豊中学生センターに届く日を意味しますので、吹田・箕面で提出する場合は学内締め切り日の前日までに提出してください。

なお、豊中学生センターで応募書類の内容確認等を行っていますので、できる限り豊中学生センターに提出するようにしてください。

Q 3 . 早めに企業に接触する意味でインターンシップに参加した方がいいでしょうか。

A 3 . インターンシップは業界・企業理解の手段として有効ではありますが、他の方法でも仕事に対する理解を深めたり、自己研鑽を積むことはできます。他にやりたいことがあれば、インターンシップにこだわらなくてもいいでしょう。

ただし、一部の企業では、採用直結型インターンシップを行ったり、インターンシップ参加者に選考の案内を出すことがありますので、志望企業がそのような選考を行っている場合は、注意が必要です。

大阪大学 教育・学生支援部 学生・キャリア支援課
〒560-0043 豊中市待兼山町 1-10 豊中学生センター
TEL 06-6850-6115